

一般社団法人 日本漢方協会主催

2019年度・漢方総合講座（第29回）2月のご案内

日時：2020年2月16日（第3日曜日）

午前10時00分～午後4時10分

場所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス

2号館 地階・B55教室 <港区芝公園1-5-30>

内容：10:00～10:55 漢方の基礎理論「本草概論」 小根山 隆祥 副会長

11:05～12:00 薬局の漢方 「アレルギー」 緒方 勝行 学術委員

・・・・・・ 休 憩・・・・・・

13:00～14:30 傷寒論 「太陽病 中-5」 並木 隆雄 先生

* 千葉大学大学院医学研究院准教

14:40～16:10 漢方トピックス 「漢方の持続可能性について」

渡辺 賢治 先生

* 慶應義塾大学環境情報学部・医学部兼任教授

☆ この講座は1年間の講座ですが一回受講も可能です

一回受講をご希望の方は、準備の都合上、事前に下記事務局にご連絡下さい

一回受講の場合はテキスト代は含まれません、テキストは販売しております

一回受講料：会員：8,000円 一般：10,000円

日本漢方協会事務局

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5-11-15

TEL・FAX：03-3805-9140 E-mail:j.kampo@jeans.ocn.ne.jp

<http://www.nihonkanpoukyokai.com/>

業務時間：月曜日～木曜日<午前10時～午後4時>

当日の緊急連絡先 090-6042-7512（協会携帯電話・・・講座当日のみ）

< ご案内 >

* 4月開講「漢方総合講座(第30回)」の受講生募集中です、お申込みをお待ちしております。

また、ご紹介キャンペーンを行っておりますので、お知り合いの方をお誘いください。

<ご紹介受講生一人につき図書券：2,000円分プレゼント>

* 3月15日は「漢方総合講座(第29回)」の最終講座となります。講座終了後、修了式を催す予定です。

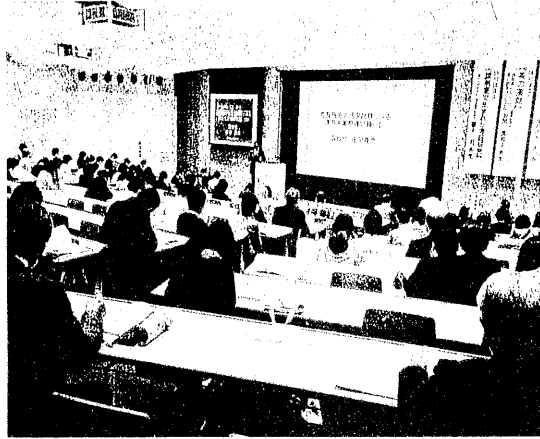
* 2月16日までの講座出席回数により、修了証または受講証が確定します。お手元の受講証で年間の出席回数を確認して下さい。<8回以上は修了証、8回未満は受講証となります>

* 3月講座予定

・漢方の基礎理論	「薬性薬対」	飛奈 良治 学術委員
・薬局の漢方	「高齢者と漢方」	八木多佳子 学術委員
・傷寒論	「太陽病 下-1」	並木 隆雄 先生
・漢方トピックス	「セルフメディケーションと漢方」	渡辺 謹三 先生

正しい漢方知識の普及・発展へ

今年で創立50周年の節目迎える



200人近くが参加した第39回漢方学会大会（昨年11月）

日本漢方協会は、伝統ある日本の漢方医学に関する知識を修得・普及し、健康な生活を確保することを目的として、1970年に日本漢方協議会として発足し、75年に日本漢方協会に名称を変更。4年前には一般社団法人化を果たし、今年に至っている。今年が協会創立50周年

伝統と共に漢方を現代に生かす

人工知能の活用やビッグデータによる分析など、医療において高度化・複雑化が急速に進む一方、東洋医学・和漢薬を含め、漢方医学への関心も高まっている。こうした社会のニーズに応えるため、伝統・伝承など古典を大事にしながら、現代に生かせる漢方を志し、日本漢方協会には医師、薬剤師、医薬品登録販売者などをはじめ、多くの人が集い、講習を受講している。

日本漢方協会

という節目の年を迎え、「正しい漢方知識の普及に向けた漢方総合講座をはじめ、学術大会や薬草観察会、薬局製剤実習など、会員と受講生に向けた実践的な学びと研鑽・相互親睦の場を、これまで以上に充実させていきたい」（今井淳会長）とする。



会見する今井会長（左）と三上副会長

「傷寒論分科会」は、漢方を学ぶに当たって最も重要な古典といえる傷寒論の原文を読む会で、これを通して漢方の理論、考え方、実際の運用方法を勉強する。「薬局製剤分科会」は、薬局製剤を自分の薬局で作ることを目指し、オリジナル製剤の製造や生薬の保険調剤に必要な技能を修得する。「薬用植物観察分科会」は、調剤で行う生薬の原植物がどのような環境に生じているのか、どのような形態的特徴を持っているか等をフィールドで観察する。毎年テーマを決めて、その植物を中心に観察を行う。このほか、漢方にまつわる様々なことを皆で楽しく語り、「漢方雑学分科会」もある。

今年度は「実事求是」がテーマ

4月から第30回漢方総合講座

- ▽4月19日①開講あいさつ、ガイダンス（今井淳）②麻黄、桂枝（小根山隆洋）③太陽病・下2（秋葉裕生）④女性の一生と漢方・鍼灸（石野尚吾）
- ▽5月17日①薬草園曹空研修会（場所は東京都薬用植物園）
- ▽6月21日①証（三上正利）②石膏、知母（河合元宏）③陽明病・1（大友一夫）④日本薬局方生薬の学名変更の新しい動き（佐竹元吉）
- ▽7月19日①漢方薬局製剤実習講座（桂枝湯・当帰芍薬散）
- ▽8月16日①三陰・三陽（岡崎仁子）②大黃、芍薬（千葉和美）③陽明病・2（並木隆雄）④低血圧症
- ▽10月18日①五行説（中村成代）②呉茱萸・細辛（熊井啓子）③少陰病（高木麗子）④「傷寒論」について考える（松岡尚則）
- ▽11月15日①第40回漢方学術大会（創立50周年記念式典含む）
- ▽12月20日①四診（川合一正）②茯苓、朮（飛来良也）③厥陰病（小林瑞）④漢方薬の薬理作用（山田陽城）
- ▽1月17日①薬局の漢

方その1（渡辺万乃）②黄連、黄柏（庄子見）③霍乱病、陰陽易逆後復病（並木隆雄）④精神科領域の漢方治療（杵浦彰）

会場は東京港区の慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス、講義は原則毎月第3日曜日の午前10時〜午後4時10分。受講料など詳細は同協会ホームページ（http://www.nihonkyokai.or.jp/）

「薬局製剤分科会」は、漢方を学ぶに当たって最も重要な古典といえる傷寒論の原文を読む会で、これを通して漢方の理論、考え方、実際の運用方法を勉強する。「薬局製剤分科会」は、薬局製剤を自分の薬局で作ることを目指し、オリジナル製剤の製造や生薬の保険調剤に必要な技能を修得する。「薬用植物観察分科会」は、調剤で行う生薬の原植物がどのような環境に生じているのか、どのような形態的特徴を持っているか等をフィールドで観察する。毎年テーマを決めて、その植物を中心に観察を行う。このほか、漢方にまつわる様々なことを皆で楽しく語り、「漢方雑学分科会」もある。

実践的な学びと研鑽の場を提供

は組織も同じで、50年を迎えて今後協会もどう歩んでいくかが大事になる。（調剤を含めた）薬剤師の業務も変わっていくだろうし、医師の漢方に対する立場も変わっていくかもしれない。協会として、これに合わせた同日夕刻からは近隣のホテルに会場を移し、創立50周年記念式典を開催することとした。このほか、毎月の会報「日本漢方協会通信」発行、本漢方協会通信、発行、薬科大学との薬用植物観察分科会から活動報告、賛助会員各社からは最新の漢方情報が発表される。大会中に会見した協会執行部は「令和最初の学術大会であると同時に、協会創立50周年」と、

が漢方を始めた頃は、言わば一匹狼が多くて、自分の技術を磨くために勉強し、他人には教えずに自分の特徴を生かしたいという傾向が強かったという。近年は漢方が正式な医学として、どんどん認められるようになってきた。薬剤師の仕事も変わってきている。漢方をめぐるのは、保険の問題や今後も様々な規則が出てくるかもしれない。それらをどうやって克服していくかも、われわれに課せられた次の世代に移行するための使命か感じている。薬剤師会などに働きかけたが、政治的な問題への対応も必要なので、思っている」と述べた。